

研究主題「我が国の歴史や伝統に対する理解と愛情を深める指導の工夫

—言語活動の充実を通して—」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
調布市立第一小学校 教諭 石田 奈賀子

I 研究のねらい

平成13・15年度教育課程実施状況調査より、第6学年の歴史学習においては、学習が通史的、網羅的になりがちであるため、児童の、歴史を学ぶ意味があいまいになっているという課題が指摘された。また、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査（2003年）からは、思考力・判断力・表現力及び知識・技能の活用力に課題が見られた。

これらを踏まえて、新小学校学習指導要領社会では、我が国の歴史や伝統に対する理解と愛情を深めることが重視されるとともに、「言語活動」の充実を図る指導の工夫が求められている。つまり、社会科の目標である「よりよい社会の形成に参画するために必要な公民的資質の基礎を培う」ために、問題解決的な学習の重要性が改めて強調されるとともに、その展開に当たっては、「書く」「話し合う」等の言語活動を効果的に位置付け、歴史上の人物の働きを具体的に学ぶことが重視されているのである。これからは、このような学習を通して、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てるための授業改善が特に重要である。

そこで、本研究では言語活動の充実を図り、我が国の歴史や伝統に対する理解と愛情を深めることを目指した、指導法の開発及びその有効性の検証をねらいとした。

II 研究の内容と方法

1 研究仮説

自分の考えを伝え合ったり、文章で表現したりする言語活動に重点を置いた問題解決的な歴史学習を展開することにより、児童の歴史的事象に対する見方や考え方を広げ、我が国の歴史や伝統に対する理解と愛情を深めることができるであろう。

2 基礎研究

(1) 目指す児童像の明確化

中央教育審議会答申、小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月）を分析し、歴史学習における課題及び授業改善の視点について明らかにした。そして、歴史学習における「我が国の歴史や伝統に理解と愛情を深めている」姿とは、「自分たちの生活の歴史的背景や、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深め、歴史を学ぶ意味を考えている」姿ととらえた。

(2) 学習活動の工夫の視点

小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月）で重視されている「歴史的事象を比較・関連・総合させ再構成する学習」及び「調べたことや考えたことを表現する学習」の二点に留意して研究を進めた。そして、言語活動を充実させた問題解決的な歴史学習を通して、学習のねらいが達成できるように授業計画を立てた。

3 調査研究

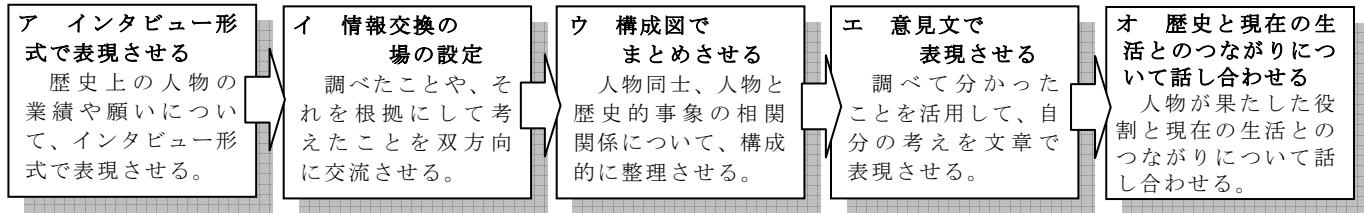
検証授業前、都内公立小学校第6学年児童（86名）を対象に、歴史学習における「好き」「好きな言語活動」「現在の生活とのつながり」の意識について相関関係があるかどうかを調べてみたところ、有効性は認められなかった。また、記述式の回答においても、歴史を学ぶ意味を理

解している児童はわずかであり、これらの結果からも授業改善の必要性が明らかになった。

4 開発研究

(1) 検証授業で重点を置いた言語活動

児童につかませたい基礎的・基本的な知識及び概念（見方や考え方）を明確にした上で、次の5つの視点で、「書く」「話し合う」言語活動に重点を置いた指導計画を作成した。



(2) 検証授業の実施

都内公立小学校第6学年（3学級）において、小単元「明治の国づくりを進めた人々（8時間扱い）」の検証授業を実施した。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 研究の結果

(1) 問題解決的な歴史学習の展開について

問題解決的な学習の基本的な流れは、学習問題を「つかむ」、課題を「追究する」、学習問題に対する自分の考えを「表現する・まとめる」である。その中の「つかむ」段階において、江戸末期と明治初期の日本橋の絵図を提示し比較させた。また、黒船来航が当時の日本にとって衝撃的な出来事で、開国のきっかけになったことを当時の人々の立場から想像させた。さらに、明治時代の主な出来事を抜粋した年表を作成して提示し、人物の働きに着目させた。これらの学習活動を通して、「明治時代はどのような人物が活躍し、どのような世の中に変わったのだろうか。」という、学習問題を設定した。

このように、時代の変化が分かる資料から、気付いたことや調べてみたいことを交流せたり、時代の変化のきっかけとなった歴史的事象を取り上げ、その時代の人々の思いを想像せたりして学習問題を設定することで、児童は、見通しをもって課題を追究することができた。

(2) 言語活動の充実について

検証授業で重点を置いた言語活動の結果は次の通りである。

ア インタビュー形式で表現させる

西郷隆盛や大久保利通などの歴史上の人物に着目させ、その人物の業績や願いについて、調べて分かったことを活用してインタビュー形式で吹き出しに表現させたことで、様々な人物の働きや思いを身近に引き寄せながら学習を進めさせることができた。

イ 情報交換の場の設定

調べたことやそこから考えたことを交流する情報交換の場を設定した。児童一人一人に明確な参加意識をもたせて情報交換をさせたことで、児童は、西郷隆盛と大久保利通の業績や願いについて調べたことを根拠として考えを広げることができた。

ウ 構成図でまとめさせる

学習から分かったことを基に、人物同士、人物と歴史的事象の相関について、視覚的にも分かりやすく構成的にまとめる学習活動を設定した。この学習活動を通して、人物の相関関

係や、歴史的事象を比較・関連・総合させて考えさせることができた。

エ 意見文で表現させる

単元のまとめに、それまで学習してきたことを活用して、「意見文」を書く学習を設定した。調べたことを根拠として、自分の考えを意見文に表現させることで、学習問題に対する考え方をもたせたり、明治時代の様相を的確にとらえさせたりすることができた。

オ 歴史と現在の生活とのつながりについて話し合わせる

指導者が、小単元を通して児童につかませたい概念（見方や考え方）と歴史を学ぶ意味を明確にもった上で学習を展開し、歴史と現在の自分たちの生活とのつながりについて話し合わせた。この学習活動を通して、歴史を学ぶ意味を実感させることができた。

(3) 児童の変容について

検証授業後の意識調査で大きな変容が見られたA児を観察対象児として選び、有効だったと考えられる言語活動を意図した手だてと照らし合わせて分析した。

表1 検証授業におけるA児の変容



表1より、A児は、人物及び歴史的事象に関心をもって学習に取り組んでいたことが、詳細な取材メモや自分なりにレイアウトを工夫した構成図、人物になりきって書かれたインタビューからも読み取れた。そして、これらの学習を通して、大久保利通や西郷隆盛の業績について確かな事実認識をもつことができた。さらに、意見文を書く学習活動では、明治政府が目指した国づくりを的確にとらえて自分の言葉で表現することができた。

A児は、検証授業前の意識調査では、「歴史の授業がなくても困らない。」から「どちらかといえば生活に役立たない。」と回答していた。しかし、検証授業後には、歴史学習は「国が成り立つから」「生活に役立つ。」と回答しており、その意識は大きく変容した。また、大久保利通の「国のために力を尽くした姿勢に共感した。」と回答している。

(4) 意識調査の結果について

歴史学習における「好き」「言語活動」「現在の生活とのつながり」(図1)の意識について、児童の回答に相関関係があるかどうかについて調べたところ、検証授業前よりも数値は上がったものの、その有効性は認められなかった。しかし、「好き」の値は11% (4点法の平均値は1.93⇒3.63)、「生活に役立つ」の値は、30% (4点法の平均値は1.52⇒3.52) 上昇した。また、「生活に役立つ理由」を記述させたところ、「今までいろいろなことがあったからこそ、現代が成り立っているから。」「昔と今はつながっているので、昔のことを知ると今も知ることができると思うから。」等の回答が多く見られ、歴史を学ぶ意味を実感している児童が大幅に増えた。

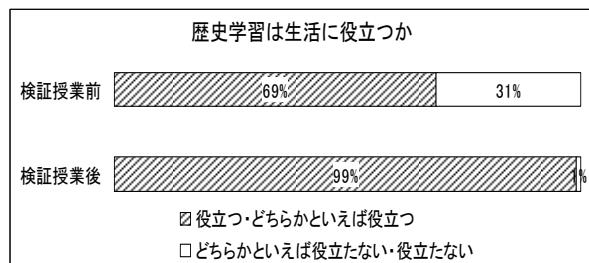


図1 「歴史学習は生活に役立つか」調査結果

2 研究の考察

検証授業及び調査研究より、児童の我が国の歴史や伝統に対する興味・関心を高め、歴史的事象を身近に感じながら理解を深めさせるためには、歴史上の人物の果たした役割や意義に着目させながら問題解決的な歴史学習を展開することが有効であることが分かった。

また、児童の歴史的事象に対する事実認識をより確かなものにし、見方や考え方を広げるためには、調べて分かったことを根拠にして考え、その上で書いたり話したりする言語活動を問題解決的な歴史学習に位置付けることが大切であることが分かった。

以上のような学習を展開するに当たっては、小学校学習指導要領解説社会編(平成20年8月)を基に、単元及び歴史学習全体を通して児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識や、とらえさせたい概念(見方や考え方)を明確にもって指導することが大切である。それを通して、児童に歴史の様相を的確につかまるとともに、我が国が、先人の働きによって発展してきたことを理解させることにつながる。

このような学習を積み重ねることで、児童の歴史や伝統に対する理解と愛情を深めさせることができると考える。

IV 今後の課題

- 言語活動の充実を図った問題解決的な社会科学習の年間指導計画を作成する。
- 我が国や郷土の伝統や文化、歴史への理解と愛情をさらに深めるために、他教科と関連させた体系的なカリキュラムを開発する。